

地域保健

3
2020

●特集

認知症施策推進大綱で保健師の
地域活動はどう変わる？

●特別座談会

厚生労働省での学びを地域に
一気づき、抱負、今後のビジョン





6

【特集】

認知症施策推進大綱で保健師の地域活動はどう変わる？

8 これからの認知症施策推進で求められる保健師の役割

●出席者（五十音順）	國松 明美さん	（湯沢町 健康福祉部 健康増進課）
	永田 久美子さん	（認知症介護研究・研修東京センター）＝司会
	藤田 和子さん	（日本認知症本人ワーキンググループ）
	村中 峯子さん	（地域医療振興協会／東京医療保健大学大学院）
	吉澤みどりさん	（渋谷区 福祉部 高齢者福祉課）

26 認知症施策推進大綱について 厚生労働省 老健局 総務課 認知症施策推進室

33 認知症支援における保健師の役割 村中峯子（地域医療振興協会／東京医療保健大学大学院）

38 【事例】アクション農園を通じた住民主体の取り組み 國松明美（湯沢町 健康福祉部 健康増進課）

42 「運転寿命延伸プロジェクト・コンソーシアム」の取り組み 石井秀明（国立長寿医療研究センター）

46

【特別座談会】

厚生労働省での学びを地域に

～気づき、抱負、今後のビジョン～

●出席者（五十音順）	畦地美幸さん	（老健局 老人保健課）《愛知県 豊田市から出向》
	岩本美鶴さん	（労働基準局 安全衛生部 労働衛生課 治療と仕事の両立支援室） 《長崎県から出向》
	北澤卓也さん	（保険局 国民健康保険課）《長野県から研修派遣》
	藤原真里さん	（健康局 健康課 保健指導室）《高知県から出向》＝司会
	山本 愛さん	（健康局 健康課 保健指導室）《静岡県から研修派遣》

2 ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！▶神戸美奈子さん（市川市 南行徳保健センター）

72 ピープル▶umi.さん（画家）

78 活動報告▶地震・津波・原子力発電所の事故の影響を受けた被災地の避難所支援 地域包括支援センター保健師の経験から見える 健康危機管理への示唆 吉田和樹 ほか

90 情報BOX

96 次号予告／奥付

連載

62 いのちに向き合う《第6回・最終回》／浜垣誠司

64 生活習慣を変えるコミュニケーション技術 《第6回》／磯村 毅

66 罪を犯した人の生活と健康支援《第6回・最終回》／船山健二

68 虐待予防は母子保健から《第6回》／鷺山拓男

76 ESSAY 国際保健《第36回》／松田正己

82 保健師のための閑話ケア《第87回》／藤本裕明

86 中臣さんの環境衛生ウオッチング《第72回》／中臣昌広



神戸美奈子さん

市川市 南行徳保健センター

まだまだ学ぶことがたくさん。
話しやすい安心してもらえる保健師を
目指しています



保健センターからすぐの江戸川を背景に。東京都に隣接する都会的な地区から自然豊かな地区までさまざまな住環境に富んでいる

文＝白井美樹（ライター） 写真＝神保 誠

認知症施策推進大綱で 保健師の地域活動は どう変わる？

2019（令和元）年6月、国は「認知症施策推進大綱」を取りまとめた。認知症関係施策を強化するため、認知症になっても住みやすい社会をつくる「共生」と、発症や進行を遅らせる「予防」を車の両輪として5つの柱を掲げたが「普及啓発・本人発信支援」は、最も重きを置かれているものと思われる。

一方、当初大綱の眼目だった「予防」は、それを強調し過ぎるのは当事者を否定することにつながると批判された。ともすると「普及啓発・本人発信支援」と予防とは、対立構造にあるようにも見えるが、決して相容れないものではなく、保健師が目指すべき予防活動はこの中間にあるのではないだろうか。

本特集では、座談会や事例などを通して、大綱が保健師の役割にどんな影響があるのか読み解いていく。



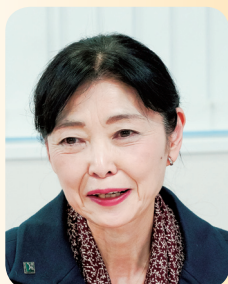
P 8

座談会

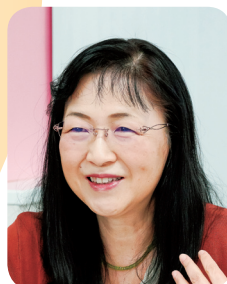
これからの認知症施策推進で求められる保健師の役割



▲ 藤田和子さん



▲ 永田久美子さん＝司会



▲ 村中峯子さん



▲ 國松明美さん



▲ 吉澤みどりさん

(出席者)
※五十音順

- ◎國松 明美さん (湯沢町 健康福祉部 健康増進課)
- ◎永田久美子さん (認知症介護研究・研修東京センター)＝司会
- ◎藤田 和子さん (日本認知症本人ワーキンググループ)
- ◎村中 峯子さん (地域医療振興協会／東京医療保健大学大学院)
- ◎吉澤みどりさん (渋谷区 福祉部 高齢者福祉課)

P26

認知症施策推進大綱について

◎厚生労働省 老健局 総務課 認知症施策推進室

P33

認知症支援における保健師の役割

◎村中峯子 (地域医療振興協会／東京医療保健大学大学院)

P38

【事例】アクション農園を通じた住民主体の取り組み

◎國松明美 (湯沢町 健康福祉部 健康増進課)

P42

「運転寿命延伸プロジェクト・コンソーシアム」の取り組み

◎石井秀明 (国立長寿医療研究センター)

特別座談会

厚生労働省での 学びを地域に

気づき、抱負、今後のビジョン

司会

ふじわら・まり

藤原真里さん



◎健康局 健康課 保健指導室 主査
【高知県から出向】

やまもと・あい

山本 愛さん



◎健康局 健康課 保健指導室 研修生
【静岡県から研修派遣】

きたざわ・たくや

北澤卓也さん



◎保険局 国民健康保険課 研修生
【長野県から研修派遣】

あぜち・みゆき
畦地美幸さん



◎老健局 老人保健課 主査
【愛知県豊田市から出向】

いわもと・みつる
岩本美鶴さん



◎労働基準局 安全衛生部 労働衛生課
治療と仕事の両立支援室 主査
【長崎県から出向】

厚生労働省には全国の自治体から出向や研修で

派遣されている保健師たちがいる。

国ならではの視点、自治体の仕事との違いを経験し、

彼ら彼女らはどんな気づきを得たのだろうか。

5人の保健師たちが、それぞれの思いを語った。



u
m
i

〈うみ〉

さん

●……画家

「先天性表皮水疱症」を多くの人に知ってほしい！ アートの力で広がる輪

先天性表皮水疱症は、生まれたときから全身の皮膚や粘膜に水疱やびらんが繰り返し発症する皮膚疾患だ。皮膚全体が蝶々の羽のように脆いので、欧米ではこの疾患を持つ子どもたちを、「バタフライチルドレン」などと呼んでいる。日本国内での患者数は推定約千人。まだ治療法が見つかっていないこの病気に対し、少しでも多くの人の理解を深めるため、umi.さんは仲間と活動をスタートさせた。

●取材・文……………白井美樹（ライター）

物心がついたころから、いつも絵を描いていたというumi.さん。美大出身で絵が好きなお母さんの影響を、少なからず受けていたのではないかという。

「子どものころは動物の絵を描くのが好きで、よく不思議な生きものを描いていましたね。漠然とですが、将来は絵に関わる仕事がしたいと思うようになったのは、小学生のころだったと思います」

中学校で美術部に入ってから、さまざまな賞を取るようになった。だが、その後美大を卒業するにあたり、周囲が就職活動

をする中で、umi.さんも一時は現実的な考えにとらわれた時期があったそうだ。

「不安定な絵描きという仕事でご飯を食べていけるのかなという、将来の見えない不安に負けていく自分がありました。一般の企業の面接試験を受け、内定ももらいました。でも、結局は入社を断って、絵描きで生きていく決心をしたのです」

以来、作品づくりにずっといそしんでいたumi.さん。瞬く間にその才能は開花し、24歳になったときには、銀座のギャラリーからオフアールがあり、個展を開催する

までになり、画集も出すことができた。

大好きなお姉さんが患っていた先天性表皮水疱症

そんなumi.さんには、一歳年上のお姉さんがいる。幼いころからお姉さんが大好きで、いつもくっついて遊んでいたという。そのお姉さんが患っていた病気が、指定難病の表皮水疱症だった。

「表皮水疱症は、毎日治療が必要な病気です。水ぶくれができれば、皮膚を切ったままの水を出さないといけません。患部に

特集

地域と企業のコラボレーションで
健康経営を

◎座談会 地域・職域連携と健康経営

【出席者】 高森洋子さん（大分県南部保健所）

津下一代さん（あいち健康の森健康科学総合センター）＝司会

土屋厚子さん（静岡県健康福祉部）

室山孝子さん（横浜市健康福祉局）

※五十音順

◎健康経営の本質【産業医の視点から】

岡田邦夫（健康経営研究会）

◎幸福学から見る健康経営 【幸福学の視点から】

前野隆司（慶應義塾大学大学院）

◎人を大切にする健康経営 【経営学の視点から】

坂本光司

（特定非営利活動法人SOHO・アット・しずおか）

◎地域・職域連携における展開 事例1 静岡県 土屋厚子（静岡県健康福祉部）

◎地域・職域連携における展開 事例2 大分県 藤内修二（大分県福祉保健部）

◎地域・職域連携における展開 事例3 横浜市 春日潤子（横浜市健康福祉局）

◎健康経営の概要と動向

経済産業省ヘルスケア産業課

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！ 未定

ピープル

梶原厚子さん（株式会社スペースなる）

《新連載》

ゲーム障害とスマホ依存 ― 地域保健にできること

磯村 毅（予防医療研究所 日本動機づけ面接学会〈JaSMINE〉代表理事）

《新連載》

高齢者の「通いの場」づくりの取り組みとその効果

近藤克則（千葉大学予防医学センター教授）ほか

寄稿

言語聴覚士による地域共生の活動

橋田祐理子（言語聴覚士）

※新型コロナウイルスの影響等により、変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健

令和2年 3月号

令和2年3月1日発行／隔月（奇数月）1回1日発行

発行人 菅 国典

制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22

株式会社 東京法規出版

振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】

TEL 03-5977-0300

FAX 03-5977-0385

ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】

TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp

◎表紙・本文デザイン＝新海妙子
 ◎印刷・製本＝（株）上野印刷所
 ◎編集長＝須賀健次
 ◎編集員＝松岡康子

本誌に掲載された著作物の
 複写・転載等の許諾権は、
 株式会社東京法規出版が保
 有しています。

バックナンバー紹介

2018 年 11 月号

特集「高齢化するひきこもり」

ひきこもりの平均年齢は年々上昇している。現状と課題、脱出に向けた各地の取り組み、保健師が担うべき役割についてまとめる。

2019 年 1 月号

特集「刑務所と地域との連携 保健師は健康課題を担えるか

～女子受刑者の問題を中心に～

刑務所にいる人の多くは、必要な支援につながらず、社会から孤立した人々。地域に帰ってくる住民に、保健師はどんな支援をすればよいかまとめる。

2019 年 3 月号

特集「胎児性アルコールスペクトラム障害を防ぐ」

妊婦のアルコール摂取により胎児に影響が出る胎児性アルコールスペクトラム障害（FASD）のわが国における現状と問題点について取り上げる。

特別座談会「地域保健の未来を拓く」

—厚生労働省での経験から

出向・研修生という形で厚生労働省で働く、地方自治体の保健師 5 人が自らの経験と今後の展望について熱く語る。

2019 年 5 月号

特集「新時代「令和」の保健師 8 つの論点」

令和の幕開けにあたり、保健師に関係する 8 つの論点を取り上げて展望を示す。内容は総論および①キャリアパスとキャリアラダー②委託事業③地区担当制と業務分担制④統括保健師⑤多職種連携⑥家庭訪問⑦プレゼンテーション⑧地域共生社会。

2019 年 7 月号

特集「災害時に配慮を要する在宅療養者への支援 ～難病等で医療的ケアが必要な人を中心に～」

地震や豪雨などの自然災害が頻発している。災害時に医療的ケアが必要な人に保健師がどのような支援をすればよいかをまとめた。

2019 年 9 月号

特集「性暴力被害者支援 ～現状と課題～」

これまであまり深く語られることがなかった性暴力の被害者支援について、トラウマケア、感染症や妊娠・出産、児童虐待、DV など、保健師が深く関わる部分を中心に取り上げる。

2019 年 11 月号

特集「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施に向けて」

高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施の全体像とともに、通いの場、国保データベース、フレイルの概念などのトピックを解説。自治体や後期高齢者医療広域連合の好事例も紹介する。座談会では一体的実施における保健師の役割を中心に考える。

2020 年 1 月号

新春座談会「保健師の業務を効果的・効率的に進める」 —統括保健師は何をすべきか

保健師の業務を効果的・効率的に進めるために、行政経営の視点などを参考に、統括保健師の果たすべき役割を考える。

特集「子どもの自殺を防ぐ」— 10 代を中心に

全体の自殺者数が減る中で 10 代については減っていない。その実態と対策をまとめる。

お申し込みは

(株) 東京法規出版 地域保健編集部 FAX : 03-5977-0385

※バックナンバーの価格 (2016 年 3 月号まで) 857 円 + 税 + 送料 154 円
(2016 年 5 月号から) 1,370 円 + 税 + 送料 154 円

『地域保健』購読のご案内

- 年 6 回、隔月〔奇数月〕1 日発行
- B 5 判、総 100 頁（本文 96 頁、表紙 4 頁）
- 価 格 1 冊あたり 1,370 円 + 税、送料 154 円
- 年間購読 《公費前納および個人》7,990 円（税込、送料弊社負担）
- 年間購読 《公費後納》8,878 円（税込、送料弊社負担）
- ※書店の方は下記にお問い合わせください。

お申し込み

電話 03-5977-0300 FAX 03-5977-0385 ウェブ <http://www.tkhs.co.jp>